

IBC 岩手放送

活動名	ともの朗読会
実施期間	令和 5 年 8 月 10 日、11 月 9 日
実施回数	会場 2 回

【事業実施の成果・課題】

<みちのく・みどり学園>

去年に続き、夏休み中の子どもたちに楽しみを届けようとアナウンサー 3 人で施設にお邪魔した。子どもたちはお話をしっかり聞いてくれて、「でんせつのきょだいあんまんをはこべ」は長いお話にも関わらず集中して最後まで楽しんでくれた。

合間には一緒におやつを食べたり抱っこをしたりするなど触れ合いも行った。

男の子がふざけて「うんこの本読んで！」と言ったのを受けて、読む予定はなかったが予備で持って行っていた「うんこ！（サトシン）」の本を急遽朗読。初めは驚いた様子だったが、大笑いしてくれた。

<どんぐりっこ>

不動こども園の年中さん 26 人と、やはばこども園の年長さん 15 人、一般応募で申し込んでくれた 3 歳の親子 1 組が参加。

一緒に声を出して楽しむ絵本を最初に 2 冊続けたら、年中の子どもたちは疲れてしまったり飽きてしまったりしたようで、「もうおしまい〜！」と言い出した。

3 冊目でアナウンサー 3 人が声色を変えて演じると集中した。次回はバランスを考えてプログラムを作りたい。

【事業担当者およびアナウンサー（講師・読み手）の感想】

<みちのく・みどり学園>

この会場での事業の実施が 3 回目になり、楽しみに待っている子どもたちがいた。児童養護施設での読み聞かせでは、学校で先生が読み聞かせするのとは違う、またプロの劇団などが発表を行うのとも違う、「家族による読み聞かせ」の雰囲気はどこかに取り入れたいと考えている。コロナ禍で控えていた触れ合いもたっぷり行い、距離も近く、会話をするように読み聞かせを行った。リクエストに急遽答えられたのも良かった。最後には手作りのプレゼントももらい、人懐っこく抱っこをねだってくる子どもたちに、今年も本当に心が温まる時間をもらえた。

<どんぐりっこ>

こちらも 3 回目の実施。職員の方が会場の設営や、保育園への案内など事前の準備にご尽力下さり、今年も多くの子どもたちに読み聞かせを聞いてもらうことができた。今年は子どもたちの他に、この施設でちょうど研修を行っていた保育士や幼稚園教諭を目指す学生さんたちも見学して下さった。1 冊の小さな絵本を通して多くの人の心をつなげる読み聞かせの力を感じることができた。

【教諭・保育士・子どもたち・視聴者などの感想】

<みちのく・みどり学園>

職員の方からは「今年もありがとうございました★思っていたよりも子どもたちが長い時間聞いており、私たちもびっくりしました（^^♪IBCの番組表をもらった小学生女子は写真を見て『今日来た人達だー！』と盛り上がっておいりました。」と感想のメールを頂きました。

<どんぐりっこ>

山田所長からは「本当に有難うございました。子どもたちも元気いっぱい大きな声で盛り上がりましたね。子どもだけでなく大人も楽しめて、心温まる素敵な時間でした！」

他の職員からは「今回も臨場感のある読み聞かせに感動でした。特に『オレ、カエルやめるや』がグッと物語に引き込まれ、想像が膨らみ面白かったです。今年も心豊かな時間をありがとうございました」と感想をいただきました。